

アップル (AAPL)

【セクター】 電子機器

信買

【市場】 NASDAQ

信売

【企業概要】

スマートフォンの「iPhone」、タブレットの「iPad」、パソコンの「Mac」、ウェアラブルデバイスの「Apple Watch」、音楽ストリーミングの「Apple Music」、決済サービスの「Apple Pay」、クラウドサービスなどの機器やサービスを手がけています。地域別の売上高構成比をみると米州が42%、欧州が25%、大中華圏が19%、日本が6%、その他アジア太平洋が8%となっています（2023年9月期）。上場企業の時価総額ランキングではマイクロソフトに次ぐ第2位です（2024年2月7日時点）。

【業績】（単位：売上高、純利益は百万ドル、EPS、1株配当、BPSはドル、ROE、自己資本比率は%、純利益、EPSは調整後ベース）

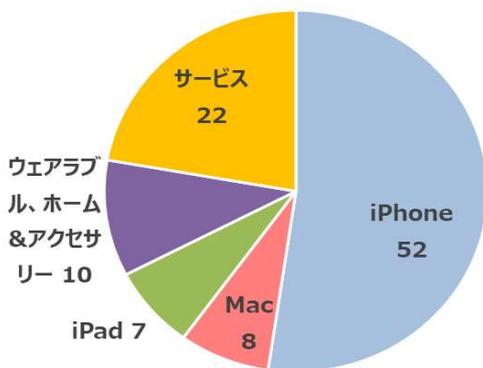
決算期	売上高	純利益	EPS	1株配当	BPS	ROE	自己資本比率
22.9期	394,328	99,803	6.11	0.90	3.2	175.5	14.4
23.9期	383,285	96,995	6.13	0.94	4.0	171.9	17.6
24.9期（予）	391,774	101,327	6.62	0.99	4.7	146.6	-

※EPS：1株当たり利益、BPS：1株当たり純資産、ROE：株主資本利益率

（出所）会社資料、BloombergのデータよりSBI証券作成

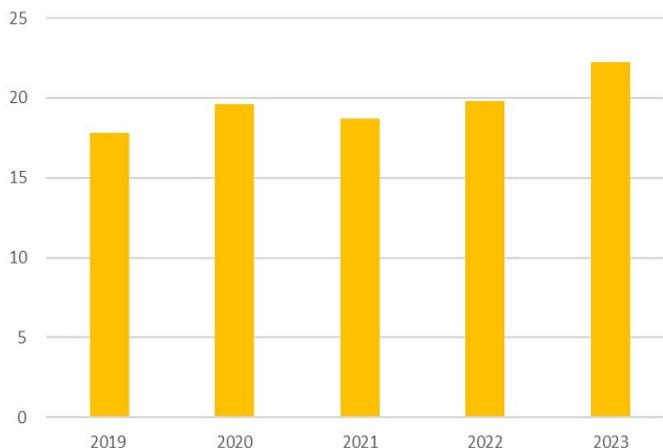
【主要指標】

売上高構成（2023年9月期、%）



（出所）会社資料よりSBI証券作成

売上高全体に占めるサービスの割合（9月期、%）



（出所）Bloombergのデータ、会社資料よりSBI証券作成

【会社の見方】

売上高の約5割を主力製品の「iPhone」が占めています。一方で、同社はサービスやウェアラブルデバイスなどの他の製品を伸ばし、iPhoneへの依存度を落とそうとしています。サービスでは音楽ストリーミングの「Apple Music」や動画配信サービス「Apple TV+」などを投入し、サービスの売上高は全体の2割強まで拡大しています。製品とサービスの粗利益率（2023年9月期）は製品が36.5%に対して、サービスは70.8%と好採算でありサービスを高める戦略は理にかなっていると言えます。なお、2024年2月に米国で待望の新製品であるゴーグル型端末「Vision Pro」を発売開始しました。アップルの参入で関連市場の規模拡大につながるかどうか注目されます。

【見通し・注目点】

2023年10-12月期の売上高は前年比2%増の1196億ドルで5四半期ぶりに増収に転じ、市場予想を上回りました。サービス売上高は同11%増の231億ドルで過去最高です。iPhoneは同6%増の697億ドルで市場予想を上回りました。一方、大中華圏の売上高は同13%減と落ち込みが目立ちます。会社側は1-3月期の売上高見通しを前年並みと示し、成長鈍化が示唆されます。なお、約270億ドルを株主還元しました。次回の決算では「Vision Pro」の販売動向も注視されそうです。

本レポートに関するご注意事項

- ・本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。
- ・本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。本資料の内容は作成時点のものであり、信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて作成したのですが、正確性、完全性を保証するものではありません。本資料に記載の情報、意見等は予告なく変更される可能性があります。

手数料及びリスク情報等

- ・SBI証券で取り扱っている商品等へのご投資には、各商品毎に所定の手数料や必要経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等は価格の変動等により損失が生じるおそれがあります(信用取引、先物・オプション取引、商品先物取引、外国為替保証金取引、取引所CFD(くりっく株365)では差し入れた保証金・証拠金(元本)を上回る損失が生じるおそれがあります)。各商品等への投資に際してご負担いただく手数料等及びリスクは商品毎に異なりますので、詳細につきましては、SBI証券WEBサイトの当該商品等のページ、金融商品取引法等に係る表示又は契約締結前交付書面等をご確認ください。